

海老名市立今泉小学校 学校運営協議会 議事録
(令和4年度 第4回)

- 1 日時 令和5年2月21日(火) 10:00~12:00
- 2 場所 海老名市立今泉小学校 CSルーム
- 3 出席委員 木島智恵美委員長、守屋佐千子副委員長、和泉雅幸委員、
中野隆則委員、
和田修二(校長)、住田晶子(教頭)、石川雄一郎(教務)

4 会議の内容 (進行:木島)

○開会あいさつ…木島委員長

○これまで(12月~2月)の学校の様子について(説明:校長)

12月・教職員による今小コンサート開催 ・1人1台端末の日常的な活用

・EnglishDay、音楽鑑賞会、福祉教室の開催

・5年生のしめ縄飾り体験

1月・教員の授業研究の様子 ・書き初め大会、書き初め展の開催

・1年生「昔あそび」

2月・授業改善のための研究会 ・学区内に完成する新たな橋の名前

・インクルーシブ教育の推進 ・わくわくエコスクールの実施

和泉:インクルーシブ教育の取組について聞きたい。

校長:障がいのある児童だけではなく、国際級や教室に行けない児童等も含めて支援を要する児童への対応を、全教員が包括的に、誰ひとり取り残すことのないよう支援できる体制を構築したい。

和泉:新たな一歩を踏み出すということですね。

○学校評価アンケート結果について(説明:校長)

※学校だより391号掲載資料を提示。

中野:外で元気に遊ぶ子が昨年より減っているが、学校環境が変わり、新校舎から運動場まで遠くなったことが影響していることも考えられる。

守屋:朝ごはんはしっかり食べて学校へ登校してほしい。また、寝る時間は遅くなっているように思われる。

木島:早寝の感覚が昔の子とは違うのだろう。

守屋:挨拶については、児童はしているつもりだけど、親はそう捉えてないようだ。

和泉:外遊びについては、運動が好きではない子もいる。図書館で本を読みたい子もいるはず。そのような児童の理解も必要になる。

校長:コロナ禍で体力の低下も懸念しているところ。

○全国学力・学習状況調査結果について（説明：校長）

※ホームページ掲載資料を提示。

和泉：学力は高いと捉えてよい。いじめについては、いじめがないから結果が低いのかもしれないが指導は必要。

守屋：「将来の夢」についてはまだ小学生だから何とも…。

木島：いじめを含む指導については、あそびっ子クラブでの様子も併せて、地域の力を取り入れながら取り組んでいくべき。小学校だからこそ、やり直せる。育んでいける。

守屋：インクルーシブ教育は多様性を認めること。自分と違うことを認めることがインクルの感覚として大切。

木島：教室には入れないけど、あそびっ子クラブに参加する児童もいる。学校と連携していきたい。

校長：いじめについては、いじめられる方に原因があるという理屈は、いじめてよいという理由にはならない。継続的に指導していく。

中野：「学校が楽しい」という回答は、学年が上がると変化するもの。一定の割合があるので安心した。

○卒業式の実施方法について（説明：校長）

- ・学校運営協議会委員の皆さんには、3月17日（金）ご臨席をお願いします。
- ・実施方法については、卒業生は入場から退場までマスク着用なしを基本とする。
- ・歌でも呼びかけでもマスクを外しても差し支えない。
- ・6年生の授業参観・懇談会で、担任の先生から保護者に説明した。
- ・来賓と保護者のマスク着用は任意とする。

和泉：写真を撮るときには、全員マスクを外せば思い出になる。

校長：来賓紹介は、来賓入場時にアナウンスする予定。

○これからの新しいPTAについて（説明：教務）

- ・保護者からPTA加入意思確認書を回収した。
- ・現時点で加入は6割を超えている。
- ・未提出者には今後もれなく意思を確認する。
- ・PTA会費は、年会費2,400円を2,000円とする。
- ・登校については、校外指導委員会が廃止されることに伴い、「登校見守り隊」という組織を設立した。

守屋：PTA常置委員はなくなるのか。

石川：PTA常置委員は廃止して、ボランティア制にしていく。「登校見守り隊」には自由登校を選択した場合も入ることになる。

木島：PTAの組織改革をしたわけですね。

守屋：市P連には加入するのか。

石川：加入は継続する。

和泉：時代の流れ。ボランティア制で、できる人ができる範囲で行っていくとよい。

守屋：家庭の環境は様々。みんなが同じようにはできない。やれる人がやればよい。

木島：途中で加入することは可能か。

石川：可能。転入した児童の保護者には意思確認したうえで入会してもらう。

木島：交通安全教室等、これまでPTAが運営してきたものは、方法を変えてPTA加入非加入にかかわらず受けられるようにするべき。

校長：不利益を受ける児童がいないように留意する。

○学校応援団の組織について（説明：木島）

- ・学校応援団運営委員会は、学校長・地域コーディネーター・PTA代表、地域代表・あそびっ子パートナー代表・図書ボランティアなどで組織されている。
- ・学校応援団が主体的に行う事業は、えびなっ子スクール・あそびっ子クラブ・まなびっ子クラブ・図書ボラ支援など。
- ・学校応援団がサポートしている事業は、学校の学習支援で、具体的には、5年生の稲作体験や1年生の昔あそびなど。

和泉：学校応援団は、学校にとってはありがたい存在。助けてくれる方には頼ってよい。私の産業技術総合研究所も協力したい。子ども向けのイベントも開催する。

守屋：地域には学校応援団に所属しないで学校に協力してくれる方もいる。学校応援団へ所属する基準を明確にしたい。

木島：本校は、学校と学校応援団はうまく連携できている。市教委から学校応援団の説明資料を配付して周知する予定がある。

○小中合同学校運営協議会について（説明：校長）

- ・中学校区で令和4年12月に柏ヶ谷中学校区学校運営協議会が開催された。
- ・重点テーマは、「つなげる」⇔「つながる」柏中学区
- ・今後は、今泉中学校区においても小中合同学校運営協議会を開催することを考えている。

○次年度の学校運営協議会委員について（説明：校長）

- ・現在の委員の委嘱期間は、令和5年度末まで。
- ・役職や人事異動等で、委員の変更も考えられる。

木島：現在の委員に、地域の方を加えることも考えたい。自治会長や地域エリアマネージャーなど。

◆リソースルームおよび国際教室の様子を見学◆

5. 閉会あいさつ…守屋副委員長